

2016 年度 春季大会 開催報告

日本語教育学会では、最新の研究と実践の成果を発信・共有し、また参加者間の交流・ネットワークを促進するため、春と秋に大会を開催しています。

今年度の春季大会は、目白大学（東京都新宿区）においてパネルセッション 8 件、口頭発表 28 件、ポスター発表 16 件、デモンストレーション発表 6 件のほか、大会初心者向けの「[わかば企画](#)」などが行われ、延べ参加者数は 1,259 人でした。[大会プログラムおよび発表要旨はこちら](#)をご覧ください。

主催：公益社団法人日本語教育学会／後援：目白大学

開催日：2016 年 5 月 21 日(土)、22 日(日)／会場：目白大学新宿キャンパス



大会委員会企画パネルセッション 「日本語教師の創造と学びの道のり —教授法・アプローチを超えて—」

左から山本弘子氏(カイ日本語スクール)
春原憲一郎氏(京都日本語教育センター)
川口義一氏(早稲田大学名誉教授)
池田玲子氏(鳥取大学)
依山雄司氏(司会・名古屋大学)

「過去を振り返るだけでなく、「今」と「これから」を合わせて語っていただくことで、聴衆のひとりひとりが自らの学習・教育観や方法論を見つめ直し、未来の日本語教育の創り手として、勇気を持って次なる実践へと踏み出すきっかけを得ることを目指す。」(発表要旨より)



研究・実践の発表のほか、伊東会長からは学会の向かうべき方向をまとめた[理念体系 2015 年度版](#)が発表されました。2016-2019 年度は、これに基づいて 9 つの事業が展開されます。



学会賞、奨励賞、論文賞の表彰が行われました。
(前列左) 奨励賞：佐藤慎司氏(プリンストン大学)
(前列中央) 学会賞：西口光一氏(大阪大学)
(前列右・後列) 論文賞：「日本生まれ・育ちの JSL の子どもの日本語カー和語動詞の産出におけるモノリンガルとの差異—」(『日本語教育』163 号、執筆者：西川朋美氏・青木由香氏・細野尚子氏・樋口万喜子氏)

次回は 2016 年 10 月 8 日(土)・9 日(日) ひめぎんホール(愛媛県松山市)にて開催予定です。

(広報委員会・大会委員会)

わかば企画1：大会コンシェルジュ

大会初心者の方向けに、「どこでどんな発表をしているの?」、「おすすめコースを教えてください。」など、大会プログラムに関する素朴な疑問になんでもお答えする「大会コンシェルジュ」のブースを受付横に設けました。1日目は「わかばさんいらっしゃい」への参加呼びかけ、2日目は「ぶらさ da わかば」の受付も行いました。



黄色の半被が目を引いたのか、多くの方が立ち寄っていただきました。

「〇〇に興味があるんですけど、どれを聞きに行ったらいいですか?」、「発表プログラム、ありますか」などの問い合わせ、「『ぶらさ da わかば』はもう締め切られたのですか」という確認や、中には「食べ物や飲み物はどこで買えますか」などの質問もありました。



わかば企画2：わかばさんいらっしゃい

大会に初めて参加する時の「わたしどうすればいいの?」という不安を少しでも軽減して、大会を楽しんでいただきたい! そんな思いで、1日目の開会式前に大会を楽しむためのコツをご紹介します大会オリエンテーション「わかばさんいらっしゃい」を実施しました。大学院生、日本語学校の教員、地域日本語教育に携わっていらっしゃる方など、わかばさんの参加は30名を超えました。

「名札ケースの中には何を入れたらいいの?」から始まり、大会のプログラム構成、発表の種類、予稿集の見方、聞きに行く発表の選び方、質問のしかた、本屋さんめぐりなど、大会を楽しむコツを伝授しました。多くの方が大会初参加とのことで、最初は緊張した面持ちでしたが、30分はあっという間に過ぎ、少しリラックスした様子で開会式の会場に向かわれました。



わかばさんには黄色いリボンをつけていただいたのですが、大会期間中、いろいろな方が声をかけてくださったようです。先輩方、ありがとうございました。

実施後のアンケートでは、「大会に来たことがない友人・知人に勧めたいと思いますか。」という質問に対して、多くの方が「勧めたい」と答えてくださいました。

今後は大会初心者のわかばさんに大会を楽しんでいただけるよう、さらに内容を充実させていく予定です。

(チャレンジ支援委員会)

わかば企画3：ぷらさ da わかば

「わかば」の頃、日本語教育の世界で自分の先を歩いているセンパイと交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問を相談したりすることができるかもしれません。しかしながら、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持つたりすることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。懇親会という機会もありますが「センパイ」の周りにはだいたい人がいるものです。そんな「わかば」な人のために新規に立ち上げたのが、「ぷらさ da わかば」です。

「ぷらさ da わかば」は、ヒューマンライブラリーにヒントを得て企画されました。ヒューマンライブラリーとは、マイノリティとして生きる人、様々な困難を抱える人を「本」として招き、来場者が読者としてその語りを聴くというイベントです。一対一で行われる場合もありますし、「一冊」を数人が一緒に借りることもあります。今回の「ぷらさ da わかば」では一対一にこだわってみました。それは、なかなか所属が異なるセンパイと一対一で話す機会はないからです。また、研究やキャリアなどの「身の上相談」をするには、一対一が必須だと考えました。



まずは、協力してくれるセンパイ探しから始めました。幸いにもあっという間にセンパイを確保することができました。そして、いよいよ当日の朝、8時45分の申し込み受付時間の前にすでに3名の「わかば」が並んでいました。おおよそ30分の間にすべてのセンパイに予約が入りました。そのため、何名もの希望者にお断りをせざるを得ない状況となりました。「わかば」は大学院生や日本語学校の関係者が中心だったようです。また、留学生の姿も目立ちました。

会場での対話も盛況でした。「わかば」もセンパイも、笑顔で話している姿が印象的でした。「隣のペアの声で、センパイの話が聞き取りにくい」との声も聞かれるほどでした（苦笑）。

実施後のアンケートの結果をみると、参加した「わかば」全員が「参加してとてもよかった」と回答してくれました。と同時に、「わかば」やセンパイからいくつかの建設的なコメントもいただきました。そうした声に耳を傾けつつ、今後、この企画を益々発展させていこうと考えています。ご協力いただいたセンパイ方、参加してくださった「わかば」の皆さん、本当にどうもありがとうございました。



(チャレンジ支援委員会)